

発行所 原発問題住民運動全国連絡センター  
 発行人 持田繁義/1部300円 年間3,000円  
 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 2-11-13  
 MMビルII 402  
 TEL 03-5215-0577 FAX 03-5215-0578  
 郵便振替 00150-7-355202  
 ホームページ <http://genpatu.com/index.html>  
 メール=genpatu-c@bizimo.jp

# 第377号

2020年  
8月25日

月1回25日発行

# げんぱつ

原発住民運動情報

## 広島・長崎の火 上野東照宮から宝鏡寺(福島県楢葉町)へ

### 原爆惨禍と原発災害つなぐ 来年三月十一日に「点火式」

核兵器廃絶を願って三十年間灯されてきた上野東照宮(東京都台東区)境内のモニュメント「広島・長崎の火」が年内に撤去され、来年春に宝鏡寺(福島県楢葉町)に移設されることになった。社殿など重要文化財の防火対策のため、上野東照宮が長年移転を求めているもので、原発避難者を支援する宝鏡寺が引き取るようになった。モニュメントを管理する市民団体は、「広島、長崎に続いて核の被害に遭った福島で再出発したい」と語る。

「広島・長崎の火」は、一九四五年当時、兵役で広島にいた故山本達雄さんが原爆投下直後に親族の家に残っていた火を採取し、携帯カイロの火種にして

福岡県星野村(現八女市)の自宅に持ち帰った。村に引き継がれて保管され、八八年には長崎の原爆投下で焼けた瓦から採った火と合わせてニューヨークの国連軍縮会議に届けられた。

当時、米ソによる核軍拡競争へ反対する運動が世界的に盛り上がり、国内では被爆者援護法の制定を求める声が高まっていた。台東区でも市民を中心に「原爆の火」を上野の森に灯そうという運動が起こり、九〇年にモニュメントが完成。管理団体「上野の森に『広島・長崎の火』を永遠に灯す会」が発足した。

「灯す会」は毎年八月、被爆や戦争体験を語り継ぐ集会などを開いていたが、上野東照宮の宮司が代替わりしたこともあり、二〇〇六年から「重要文化財の前で火が燃えているのは危険」と移設を求められてきた。「会」は台東区役所や区内の寺に移設を打診したが断られ、移設先探しは難航した。

今年初め、弁護士で「灯す会」の小野寺利孝理事長が、福島第一原発の避難者訴訟で原告団長を務める宝鏡寺の早川篤雄住職に相談し、受け入れを快諾された。上野からモニュメントと種火を運んだ上で、原発事故から十年となる来年三月十一日に「点火式」を行う計画となった。

七月十七日、小野寺さんから会員二人が宝鏡寺を訪れ、早川住職や火を管理する地元住民と面会。小野寺さんは「移設は残念だが、今回を機に核兵器の惨禍と原発被害をつなぐモニュメントにしたい」と語る。早川住職は「原発事故被害の福島も広島・長崎と同じ。可能な限り未来に伝えたい」と話す。

「原爆の火」は現在、全国に約六十箇所あるとされる。

- 六ヶ所再処理工場 技術も必要もない・危険の塊(二面)
- 寿都町長が「文献調査」応募の検討表明(三面)
- 初導入の「ベラルーシ原発」稼働へ(五面)



●ウラン濃縮技術、再処理技術、軽水炉技術などの軍事利用が核兵器、核艦船であり、同じ技術のエネルギー利用が原発システムである。同じ技術の「表の顔」が核兵器であり、「裏の顔」が原発システムである●原発システムはエネルギー利用であるから「原子力の平和利用」とする議論がある。アイゼンハワー米大統領の国連演説「原子力の平和利用(Atoms for Peace)」演説がそれである。ウラン・プルトニウムサイクルの原発システムは平和利用とは似て非なるものである●核兵器開発と原発開発は補完関係にある。イギリスは、原発の目的として「プルトニウム生産」と「発電」を掲げる。日本は原発用燃料として天然ウランを世界各国から購入するが、その低ウラン濃縮業務のほとんどはアメリカに依存する。日本のウラン濃縮業務は米核戦略のウラン濃縮工場の経常運転を補完

●原発の危険の淵源は「破壊第一」の軍事開発にある。